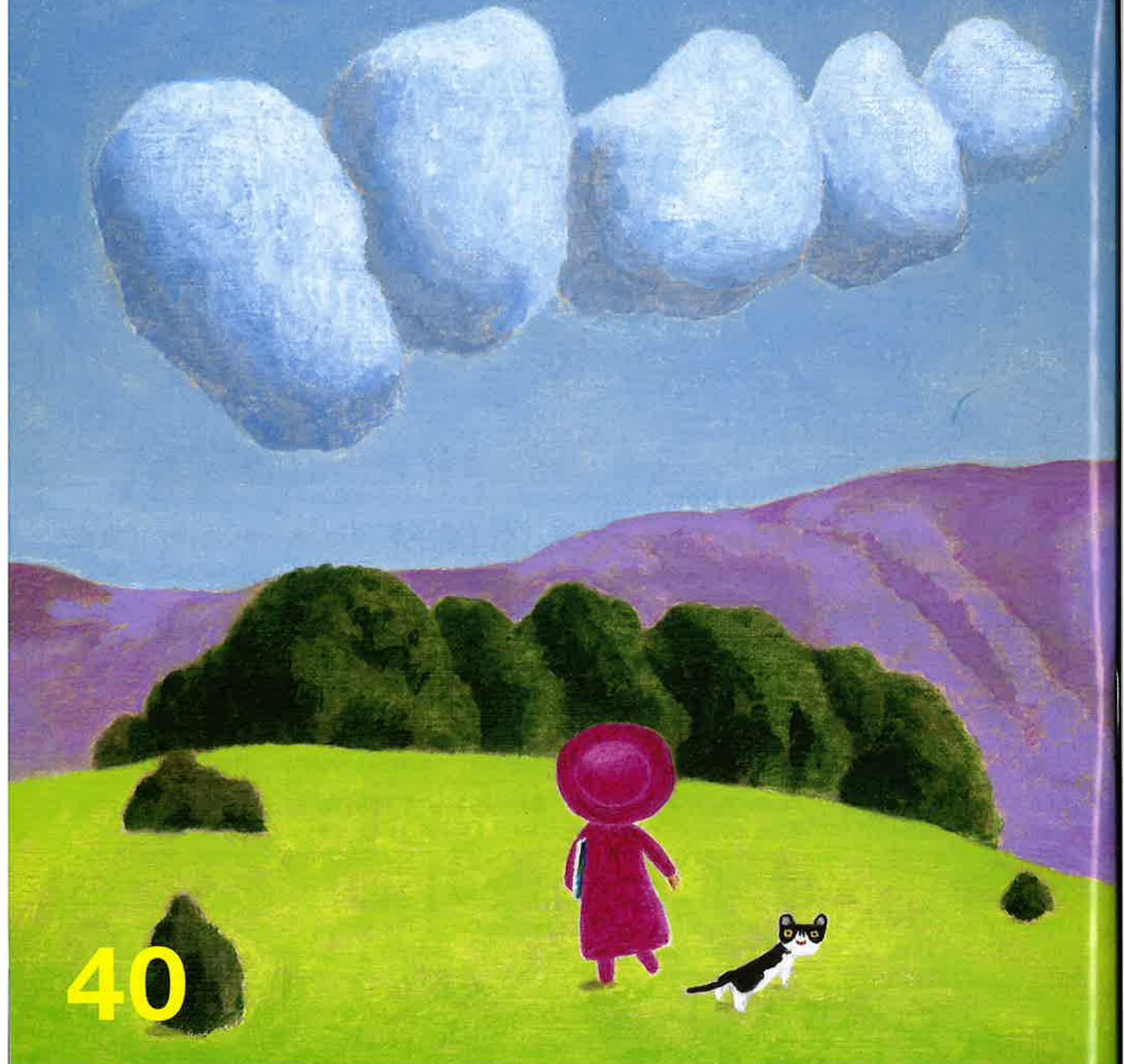


# 週刊新潮

10月26日号  
特別  
定価480円

読者アンケート  
実施中!



40

## 注目の士業

SPECIAL INTERVIEW  
スペシャルインタビュー 第42回

弁護士編 ⑱

神奈川 ■ 気軽に相談できる武蔵小杉の総合法律事務所

田中・石原・佐々木法律事務所 代表弁護士 田中 康晃氏

### 相続・事業継承からコンプライアンスまで 問題発生前の予防法務を中小企業に

法曹界広しと言えども、ここまでユニークな職歴が書ける人物も珍しいはずだ。家電量販店の携帯電話販売スタッフから衆議院議員の政策秘書さらには本誌「週刊新潮」のコメンテーターまで、同一人物とは思えないほど異色の経歴を持つ田中康晃弁護士。中小企業の経営者に寄り添い、その心情に深い理解を示す弁護士の背骨には、幼少期の原体験があった。

#### 経営者に必要なのは「予防法務」の考え方

事業の承継を考えているが、誰に相談すればいいのか。相続の準備も始めたが、家族間でトラブルになりそうで怖い。中小企業経営者の多くがこうした悩みを抱えるが、即効性の特効薬は存在しない。事業継承は「公」で相続は「私」、つまり公私にわたる伴走者が必要。と田中弁護士は説く。

なことを事前に相談すれば、多様な対策を準備できる。「弁護士はトラブルを解決した時に感謝されませんが、本当はトラブルなんて起こさしたくないですね。だからこそ、予防医療と同様に『予防法務』の考え方を勧めたいのです」(田中弁護士)

#### 販売職から議員秘書まで 法曹人でも異色の経歴

「裁判所から遠くても人々に近い場

所」という思いから武蔵小杉を開業の地に選んだ田中・石原佐々木法律事務所は、設立から11年を経過。3人は司法修習の同期で、新たに加わった女性弁護士1名を含めそれぞれ専門が異なる点が大きな強みだ。契約書のリーガルチェックからパワハラを含めた労務問題、事業買収に関わる会社間交渉、損害賠償請求や債権回収など、中小企業の法務問題を中心に扱う「町弁」を自認。何でも気軽に相談できる身近な法律事務所として、門戸を広く開放している。

田中弁護士が法曹界を目指すようになったのは、幼少期の原体験がある。小学生の頃、祖父が起業して父が継いだ会社で、あのプラザ合意の余

波を受けて廃業を余儀なくされたのだ。従業員百人規模の会社が突如崩壊した一部始終は子ども心に深く刻まれ、のちに「中小企業の役に立ちたい」と法律家の道を志す動力となった。

大学卒業後は通信会社に入社し、3年ほど営業部門に従事。エリートサラリーマンを経験した先生は多くても、家電量販店で法被を着て接客した経験を持つ人は珍しいのでは、とご本人は笑う。また、司法試験合格後、約5年間の法律事務所勤めを経て現事務所を開業したのち、何と某衆議院議員の政策秘書に就任。中小企業の声を政界に…という大志のサポートから膨大な雑務までをこなしたという。

#### 百年続く会社を作るために

超難関だった旧司法試験をわずか3年で突破した田中弁護士は、今年

7月20日号をはじめ本誌にも何コメントを寄せる企業法務の下午茶法に関する専門書を共著と刊行し、家事調停委員や植物防疫所・動物検疫所の入札等監視委員会委員を歴任するなど、多方面で精力的に活動する毎日だ。

こう聞くとエリートそのものだが、二人の子どもの子育てに奔走するよき父で、法曹人の大会で優勝するほど無類のテニス好きでもある田中弁護士の実像は、むしろ真逆だ。「人はそれぞれに事情を抱えていると肌で学んできたことが、弁護士活動の背骨となっています。生々しい人間模様が渦巻く現場に自ら身を置いてきたからこそ、相談者の心情に寄り添えるのだ。

もうひとつ、彼は昨年に忘れ得ぬ出来事を経験している。最愛の父を突然の交通事故で亡くしたのだ。かつては廃業の渦中に置かれ、事故遺族の心情まで体験した田中弁護士は、訪れる経営者に積極的に伝えられているという。「明日あなたがいなくなっても、会社と家族が今の日常を続けられるように。だからこそ、少しでも早くご相談いただきたいのです」

困ったら弁護士に相談すればよいことは、今や誰もが理解している。だが、実際に連絡しようとする時、こんな些細なことを相談していいのかと怯んでしまい、電話番号を押す手が止まる。だが、田中弁護士は「この躊躇こそが、相続を『争続』にしてしまう最大の理由です」と指摘する。事業承継も相続も、当事者間の感情のもつれがトラブルの火種となることが多い。ならば、問題化しそ



代表弁護士 田中康晃 (たなか やすあき)

#### ■経歴

- 昭和51年 神奈川県生まれ
- 平成11年 青山学院大学法学部卒業
- 平成11年 (株)ツーカーセラー東京(現「KDDI株式会社(au)」)入社
- 平成14年 (株)ツーカーセラー東京(現「KDDI株式会社(au)」)退職
- 平成17年 司法試験合格
- 平成19年 弁護士登録
- 平成24年 田中・石原・佐々木法律事務所開設
- 平成28年~30年 衆議院議員秘書(政策担当)
- 平成30年 政治資金監査人登録

#### ■著書他

- 週刊新潮(2018年10月11日)・特集記事「パワハラ・セクハラ告発されないためのケーススタディ」にコメント記事掲載
- 「独占禁止法・下請法~違反行為の判断基準と実務上の留意点」(第一法規/2019年2月/共著)
- 「下請取引規制法の実務~業種別Q&Aでつかむ下請法・建設業法のポイント」(第一法規/2022年12月/共著)

#### ■趣味

- テニス/歴史
- 弁護士、裁判官、検事が有志で作る「法曹テニス」で優勝したこともある腕前
- 歴史家の磯田道史さんの本や番組が好きでなんでもチェックしています。
- 沖繩が大好きで最近三線の練習をはじめました。

#### 田中・石原・佐々木法律事務所

[https://tis-law.com/profiles/y\\_tanaka.html](https://tis-law.com/profiles/y_tanaka.html)

TEL.044-712-0221

所在地 神奈川県川崎市中原区新丸子町915-20  
ECS武蔵小杉ビル7階  
アクセス JR・東横線 武蔵小杉駅北口より徒歩2分/東横線新丸子駅西口より徒歩4分

田中・石原・佐々木法律事務所 検索

かわさき相続カフェ 検索